



—北アフリカ地域ニュース—

チュニジア：ベン・アリ大統領の国外逃亡と新内閣の組閣に向けた動き

2011年1月17日
研究員 江崎 智絵

チュニジアでは、昨年12月17日、大学卒業後、路上行商人として生計を立てていた Mohamed Bouazizi が焼身自殺した。同人は、学歴のある若者に職がない状況に不満を抱いていた。この事件は、Facebook や Twitter を通じて同様の境遇にあるチュニジア人若者らの共感を呼び、政府への抗議活動へと発展した。当初、抗議活動の中心は、大卒の失業若年層であったが、徐々に医師や弁護士といった若年就業者も参加するようになった。それに伴い、抗議活動では、「ベン・アリを追い出せ (Ben Ali, Out)」というスローガンが掲げられるようになった。各県の労組からは、ゼネストの実施が呼びかけられ始めた。

抗議活動の広まりを受け、2011年1月12日、首都チュニス市内各地には国軍が配置された。同日、ベン・アリ大統領は、現職の内務・地域開発相を解任し、新たな人物を任命するとともに、暴力行為で起訴が確定した者を除き、一連の抗議活動で政府に収監された全員を釈放するとした。また、同大統領は、今次抗議活動の発生に関する事実調査委員会と、政府関係者による汚職・腐敗・権力乱用事例についての調査委員会の立ち上げを発表した。

しかし、その後も抗議活動は収まる気配をみせず、1月14日、ベン・アリ大統領は、サウジアラビアに逃亡した。これをもって、チュニジアでの抗議活動は、「ジャスミン革命」として一部メディアで報じられるようになった(ジャスミンは、同国の国花)。

ベン・アリ大統領の国外逃亡後、ガンヌーシ首相は、自らの暫定大統領就任を発表した。しかし、憲法上は国会議長にその権限が認められていること、ガンヌーシ首相がベン・アリ大統領と同郷

の人物で、側近であったこと等から抗議活動は、「ガンヌーシを追い出せ (Ghannouchi Out)」というスローガンを掲げるようになった。

最終的には16日、国会議長が暫定大統領となり、ガンヌーシ首相を首班指名し、挙国一致内閣の組閣を指示した。これを受け、ガンヌーシ首相は、野党3党を含む挙国一致内閣を17日にも発表すると述べた。また、大統領警護隊長及び内相が警察に逮捕された模様。